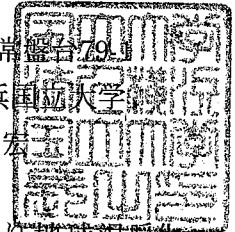


地球温暖化対策計画書

平成 17 年 9 月 28 日

横浜市長 殿

届出者 住所 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-1
氏名 国立大学法人横浜国立大学
学長 飯田 嘉宏



横浜市生活環境の保全等に関する条例第 144 条第 1 項の規定により地球温暖化対策計画を提出します。

事業所の名称		国立大学法人横浜国立大学	
事業所の所在地		横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-1	
業種等	業種	大分類 ○ - 教育, 学習支援業	中分類 76 - 学校教育
	業務用建築物の主たる用途		7641 大学
事業所の規模	製品の生産量又は出荷額		—
	業務用建築物の延床面積		187,726 m ²
	従業員数 (臨時職員を含む)		1,009 人
燃料・電気の 使用量 等	燃料及び熱の使用量 (原油換算)		1,099 kl
	電気の使用量		18,048,000 kWh
	省エネ法におけるエネルギー管理指定工場の指定区分		1 種電気
地球温暖化を防止する対策の推進に関する方針及び推進体制			別添とする
連絡先		施設部 施設企画課 施設マネジメント係 担当者氏名 佐々木 正浩 (電話 045-339-3085 F A X 045-339-3099) (E-mail shi-kikaku.manage@nuc.ynu.ac.jp)	
※受付欄			
(受付番号)			

(注意) ※印の欄には記入しないでください。

地球温暖化対策計画の概要				
計画期間	平成17年度～平成19年度			
基準年度の 温室効果ガス 排出量	基準年度	平成16年度		
	ガスの種類	排出量 (二酸化炭素換算 単位：トン)		
	二酸化炭素	9,348		
	メタン	_____		
	一酸化二窒素	_____		
	HFC	_____		
	PFC	_____		
	SF ₆	_____		
	合計	9,348		
温室効果ガスの排出 の抑制に係る目標	温室効果ガス排出量の抑制に係る目標 (二酸化炭素換算 単位：トン)			
	基準年度の排出量	目標値	削減率	
	_____	_____	_____%削減	
	温室効果ガス排出原単位の抑制に係る目標 (二酸化炭素換算 単位：kg)			
	指標	基準年度の 原単位排出量	目標値	削減率
	単位面積 (m ²) 当たり	49.8	48.3	3%削減 (年1%以上)
温室効果ガスの排出の抑制に関する措置		別添とする		
地球温暖化対策計画の公表の方法				
大学ホームページにて公表する。				
その他地球温暖化を防止する対策に関する事項				

地球温暖化対策計画書 別添資料

地球温暖化を防止する対策の推進に関する方針

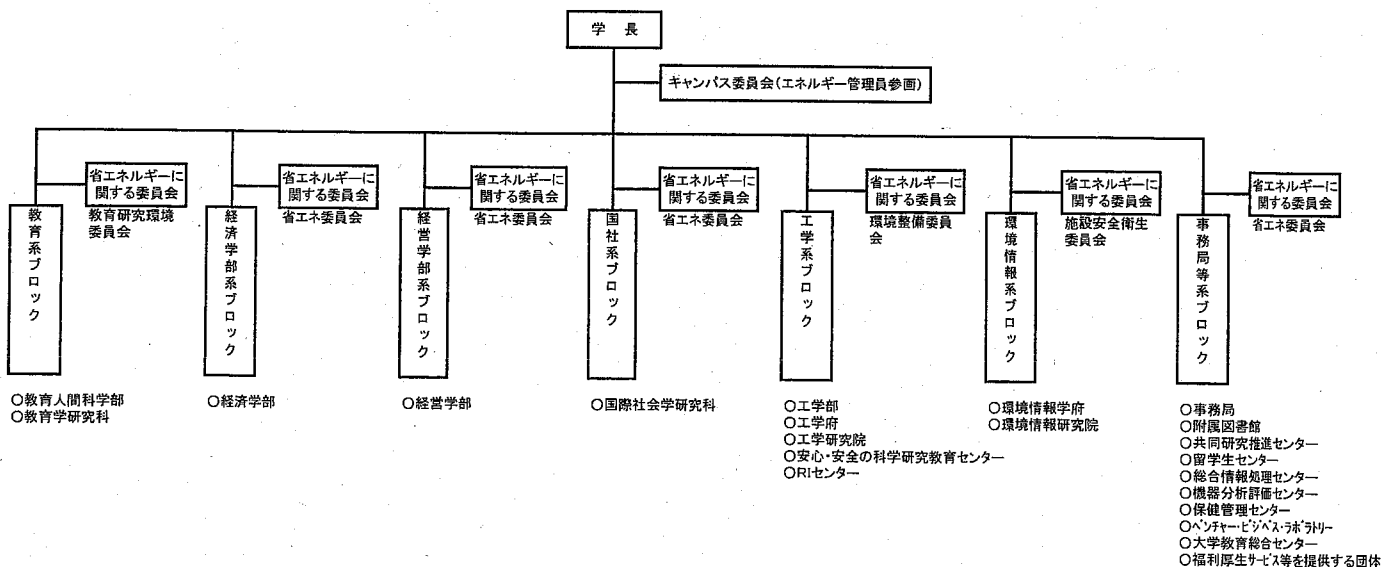
○本学は、自らの事業活動のあらゆる分野を通じて温室効果ガスの排出抑制に率先して取り組むことにより、排出抑制を図り、地球温暖化対策を推進し、活力のある持続可能な社会の実現に貢献します。

○本計画の推進及び点検・評価のため、全学的な組織を整備するとともに、地球温暖化対策を長期的、継続的に実施します。

地球温暖化を防止する対策の推進体制

○学長のもと、全学委員会である「キャンパス委員会」において計画を策定し、実施状況及び実施結果を点検し、評価を行い、「エコキャンパス白書」を刊行し、適切な方法で、公表します。また、評価の結果を踏まえ、計画を見直し、次年度の取組に反映させます。

国立大学法人横浜国立大学省エネルギー推進体制図



温室効果ガスの排出の抑制に関する措置

○ 本学は、温室効果ガスの削減目標を達成するために、さまざまな取組を進めます。

1. エネルギー使用量の削減

1-1 電気・燃料使用量の削減に係る取組

a 照明の使用

- ・昼休み・不在時は照明を消します。
- ・使用していない会議室、トイレ等は消灯します。

b OA機器等の使用

- ・昼休みなどは、使用していないOA機器の電源を切ります。
- ・コピー機は節電モードに切り替えます。

c 空調温度の管理、冷暖房負荷の軽減等

- ・冷暖房時は、温度の適正化を徹底します。(冷房期28℃・暖房期19℃)
- ・冷暖房時間を施設の使用実態に応じて適正にします。
- ・ブラインド・カーテン等の適切な使用により冷暖房負荷を軽減します。
- ・空調の吹き出し口に物を置かないようにします。
- ・冷房期の軽装等、服装の工夫により適正温度を維持します。

d エレベーターの使用、運転管理

- ・近隣階(上下階)への移動は、エレベーターの使用を控えます。

e 給湯器等の使用、管理

- ・給湯器等は、温度を適正に設定するなど、適切な運転管理を徹底します。

f 業務の効率化、労働時間の短縮化

- ・業務効率の向上に努め、残業の削減を図ります。

2. 資源の有効利用

2-1 水道使用量の削減に係る取組

a 水利用の抑制等

- ・日常的な節水を徹底します。
- ・散水用水等には可能な限り雨水や再利用水を使用します。
- ・日頃から水漏れの点検を行います。

2-2 用紙類の使用量の削減に係る取組

a 用紙類の使用の抑制

- ・会議等では、資料の簡素化や作成部数の適正化を徹底します。
- ・事前配布資料の再配布はしません。
- ・学内LAN、電子メールの活用等によるペーパーレス化を推進します。
- ・両面コピーを徹底します。

- ・コピー終了後にオールクリア機能を実行し、ミスコピーを削減します。
- ・使用済み封筒の学内便等への再使用を徹底します。
- ・ミスコピー紙等の裏面利用、メモ用紙等への再利用を徹底します。
- ・文書及び資料の共有化を徹底します。

2-3 廃棄物の減量化、リサイクルの推進に係る取組

a 事務用品・備品の適正な使用

- ・事務用品の共用化及び再使用、使用期間の長期化を図ります。

b リサイクルの推進

- ・コピー機やプリンターのトナーカートリッジは、リサイクルカートリッジを使用します。
- ・古紙やびん・カン・ペットボトル及びプラスチック類等の分別収集・リサイクルを徹底します。

c 生ごみ等の再資源化

- ・樹木の落葉を緑地に戻します。

2-4 グリーン購入の推進

- a 物品等の調達に当たっては環境負荷の低減を図るため本学の「環境物品等の調達の推進を図るための方針」に基づき環境物品等の調達を推進します。

3 公用車の利用における取組

3-1 公用車燃料使用量の削減

a 公用車利用の合理化・走行量の抑制

- ・公共交通機関を優先的に利用します。

3-2 低燃費車、クリーンエネルギー自動車の導入

- a 公用車を購入又は更新する際は、低燃費車及びクリーンエネルギー自動車の導入に努めます。

4 施設の整備及び管理における取組

4-1 環境への負荷及び省エネルギーに配慮した設備の導入並びに施設の整備及び改修

a 建築物等

- ・建築資材等の調達に当たっては本学の「環境物品等の調達の推進を図るための方針」に基づき、環境物品等の調達を推進します。
- ・建物の断熱性の向上を図ります。
- ・カーテン、ブラインド等の使用により日射の防止を図ります。
- ・自然光を有効に利用します。
- ・屋上緑化及び周辺緑化を推進します。
- ・代替フロンを使用していない資材の使用を推進します。
- ・透水性舗装の導入等、雨水の地下浸透を推進します。
- ・長期使用できるよう、維持保全にも考慮した計画及び設計に努めます。

b 電気設備・エネルギー供給設備等

- ・太陽光発電, 風力発電など新エネルギーを利用した設備の導入に努めます。
- ・夜間電力を利用した蓄熱システム等の利用を検討します。
- ・省エネルギー型設備機器の導入に努めます。
- ・照明回路や空調等の適切なゾーニングをすすめます
- ・空調機器, 冷凍機器等は, より地球温暖化への影響の少ない冷媒を使用する機器を選択します。
- ・学内の自動販売機について, 設置台数の適正化を図るとともに, 省エネルギー型への転換をすすめます。

c 水利用

- ・中水を有効利用します。
- ・節水型設備の導入をすすめます。

d 施設管理の徹底等

- ・空調機器, 冷凍機器等からのフロン類等の漏洩防止等維持管理の適正化に努めます。
- ・電気機械等からの六ふっ化硫黄の漏洩防止に努めます。
- ・フロン類, 六ふっ化硫黄等が使用されている機器等(空調機器, 冷凍機器, 電気機械, 自動車等)を廃棄する際には, フロン類, 六ふっ化硫黄等を適正に処理します。

e 公共工事

- ・熱帯材型枠の使用の合理化を推進します。
- ・副産物の再利用及びリサイクル材を優先的に使用します。
- ・リサイクル可能な資材を優先的に使用します。
- ・施工段階での建設副産物の発生抑制と再利用を図ります。

資料

温室効果ガス排出量の算定方法

本学の温室効果ガスの排出量は「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン」(試案ver1.5)平成15年7月環境省地球環境局に基づき、「活動量」に「排出係数」を乗じて排出量を算定する。

対象団地:常盤台団地

期間:平成16年度実績

1. 平成16年度の各エネルギー使用量等

名称	使用量	備考
電気	1,804.8万kwh	
都市ガス	418,347Nm	一般・GHP (Vi)
灯油	670KL	暖房用ボイラ
ガソリン	3.9KL	公用車

建物延面積:187,726㎡

2. 共通活動に伴うCO2排出量算定

1) 電気 算定式

$$\text{排出量 (kgCO}_2\text{)} = \text{電気使用量 (KWH)} \times \text{排出係数 (kgCO}_2\text{/KWH)}$$
$$6,822,144 = 18,048,000 \times 0.378$$

2) 都市ガス 算定式

$$\text{排出量 (kgCO}_2\text{)} = \text{都市ガス使用量 (Nm)} \times \text{単位発熱量 (MJ/Nm)} \times \text{排出係数 (kgCO}_2\text{/MJ)}$$
$$847,247 = 401,838 \times 41.1 \times 0.0513$$
$$\text{都市ガス使用量 (Nm)} = \text{Vi (Nm /年)} \times 273 / (273 + \text{Ti}) \times 1.02 \quad \text{Ti} = \text{年間平均気温}$$
$$401,838 \text{ Nm (都市ガス使用量)} = \text{Vi (Nm /年)} \times 273 / (273 + 16.9) \times 1.02$$

3) 灯油 算定式

$$\text{排出量 (kgCO}_2\text{)} = \text{使用量 (L)} \times \text{単位発熱量 (MJ/L)} \times \text{排出係数 (kgCO}_2\text{/MJ)}$$
$$1,669,593 = 670,000 \times 36.7 \times 0.0679$$

4) ガソリン 算定式

$$\text{排出量 (kgCO}_2\text{)} = \text{使用量 (L)} \times \text{単位発熱量 (MJ/L)} \times \text{排出係数 (kgCO}_2\text{/MJ)}$$
$$9,054 = 3,900 \times 34.6 \times 0.0671$$

3. 温室効果ガス(CO2)排出量

$$9,348,038 \text{ (kgCO}_2\text{)}$$

4. 単位面積あたりの排出量

$$49.8 \text{ (kgCO}_2\text{/m}^2\text{)} = 9,348,038 \text{ (kgCO}_2\text{)} / 187,726 \text{ (m}^2\text{)}$$